島田市

校務ＤＸ計画

島田市は早期に校務支援システムを志太地区（藤枝市・焼津市と共に３市共同調達）で導入し、業務の円滑化・効率化を図ってきました。

１人１台端末導入後は、クラウドツール（Google Workspace）や学習ｅポータル等を活用し、児童生徒が主体となる学習の推進や児童生徒への各種連絡のデジタル化を進めてきました。

令和６年度には、市で開発した「しまいく＋（しまいくプラス）」を導入し、市からのお知らせや、学校と保護者間の連絡（保護者からの出欠連絡、学校からの文書配布等）をデジタル化しました。

教員間においては、グループウェアやクラウドツールを活用した、伝達事項、各種資料及び教材の共有を進めています。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきましたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料がみられるのも事実です。業務の円滑化・効率化の観点から、今後も各種デジタル化及びペーパーレス化を進めていく必要があります。「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、次のとおり取り組んでいきます。

１．　校務系ネットワークについて

（1）校務系及び学習系ネットワークの統合

島田市は、個人情報の保護やセキュリティ確保を目的に、教員が校務で活用する「校務系」と児童生徒が端末を活用した授業を行うための「教育系」の２系統に分離し、ネットワークを構築しています。

教育系は、センターサーバーを経由せず、学校から直接インターネットに接続するローカルブレイクアウト方式を採用しており、速度遅延が生じることのない通信環境が整備されています。

（2）校務支援システムのセキュリティ対策

国は、校務系システムの目指す姿として、ロケーションフリーな働き方を推奨しており、実現するためには次の対応を行う必要があります。

① ゼロトラストセキュリティの導入
② 多要素認証等のアクセス制御による対策を講じる
③ 校務系と学習系のネットワークを統合する

①～③の対応を行うためには、多額のランニングコストが発生するため、コストとベネフィットを比較し、最適なセキュリティ対策を講じていきます。

（3）校務支援システムの更新

志太地区（島田市、藤枝市、焼津市）の教員は、３市間での異動が多い傾向にあります。異動における負担軽減を図り、児童生徒と触れ合う時間を増やすことを目的として、３市で協議会を設け、校務支援システムを共同調達しています。

現システムはクラウド方式でアクセスする仕様となっており、令和８年度に更改予定です。校務支援システムに求める要件について、３市で協議し、更改の方向性を検討します。

２．　FAX 及び押印の見直し

当市では、グループウェアシステムを利用し、各校間や教育委員会との文書連絡・資料送付を円滑に行うことができています。また、個々の教職員が外部と電子メールによる連絡ができるよう、学校代表メールを個々の校務用 PC でも閲覧、作業できるように環境を改善しました。

令和６年９月に文部科学省より発出された「学校との FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」に基づき、教育ネットワークの不具合時の緊急連絡（災害被害状況報告、不審者情報等）や、FAX の方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX 及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校に市教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

３．　ペーパーレスの推進

校内の職員会議等において、校務サーバ等に保存した電子データを閲覧し職員間で共有したり、グループウェア機能（ウインバード文書）でマニュアル等を学校間で共有したりしてきました。

しまいく＋（しまいくプラス）導入後は、市と保護者間、学校と保護者間の連絡のデジタル化、児童生徒への各種連絡のデジタル化等を通して、ペーパーレス化を推進しています。

４．　校務における生成ＡＩ等の活用

Google チャットや、Google AI「Gemini」を活用し、業務の円滑化・効率化を図ることができるよう調査研究をします。

５．　その他

デジタルドリルの活用が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっている面があります。デジタル採点システムを導入している先進自治体の取組を参考とし、ICT を活用した採点業務の効率化について調査研究をします。